

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予後予測における 4C mortality scoreの有用性

COVID-19では、一般に約8割の患者さんは無症状・軽症で経過しますが、2割で肺炎を発症、5%が重症化し、2-3%が死に至るとされています。

発症初期の段階で重症化する可能性が高い患者さんを選別することができれば、入院ベッドや治療薬などを効率的に利用することが可能です。

本研究では、岡山大学病院および津山中央病院で診療した206例のCOVID-19患者さんを対象に、イギリスで開発された4C mortality scoreが死亡および重症化・入院長期化の予測において既存の敗血症・肺炎の予後予測スコア(qSOFA, SOFA, A-DROP, CURB-65)と比較して優れていることを示しました。

死亡予測に関する各スコアリングとの比較
(ROC曲線)

